

成田市南羽鳥中岫第1遺跡土壌出土遺物が千葉県有形文化財指定に

平成13年3月30日付けで成田市南羽鳥中岫第1遺跡土壌出土遺物が一括で千葉県有形文化財の指定を受けました。下の写真の「人頭形土製品」もその一つです。このことは地域の方々に、発掘した当センターにとってもうれしいニュースです。

人頭形土製品は首の部分4ヶ所に小穴があいています。また、端部は割れた状態ではなく、土器の口縁部のように丁寧に丸く整形されています。縄文時代前期(約6,000年前)頃の製作と思われ、全国的にも極めてめずらしい発見です。なお、これがどのような用途に使われたのか、今のところはっきりしません。現在、成田市からお借りして、当センター展示室に展示中です。ぜひご覧ください。



第5回遺跡発表会の開催

7月14日、佐倉市立中央公民館大ホールにて第5回遺跡発表会を開催します。当センターが発掘調査した佐倉市井野長割遺跡(縄文時代)佐倉市宮本宮後遺跡B地区(第2次)(古墳~奈良・平安時代)佐倉市内田端山越窯跡(平安時代)の調査成果の報告と職員の研究発表をおこないます。併せて当センターの考古資料展示室において常設展の他、今回発表した遺跡の出土遺物を展示した「最新出土考古資料展」を開催します。発表会の参加及び資料室の入館は無料ですのでふるってご参加・ご見学ください。

企画展「龍角寺五斗時瓦窯跡出土遺物展」開催中

当センター考古資料展示室にて、7月6日 まで開催しています。まだご覧になっていない方は是非この機会にお越しください。

《発掘中の遺跡》

6~9月予定

がんばってます!

成田市
下金山城跡(中・近世)
南三里塚宮原第1・2遺跡(旧石器・近世)

佐倉市
臼井台大名宿遺跡(古墳~奈良・平安時代、中・近世)
宮内井戸作遺跡(縄文時代)

四街道市
谷津田遺跡(縄文時代)
前原No.-2遺跡(縄文時代)
木戸場遺跡(縄文時代)

富里町
獅子穴X遺跡(縄文・古墳時代)
梅田台遺跡(旧石器時代)

本埜村
龍腹寺裏遺跡(旧石器~縄文時代)



宮内井戸作遺跡発掘調査風景

《室内作業》

こつちもやっています!

本部

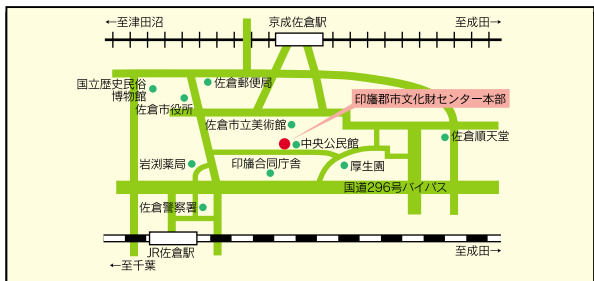
佐倉市鶴木町198-3 043-484-0126
城次郎丸遺跡〔第4次・第5次〕(佐倉市、弥生時代他)
曲輪ノ内遺跡〔第4次〕(佐倉市、弥生時代・近世)
鍋山西ノ切遺跡(佐倉市、古墳時代)
臼井台大名宿遺跡(佐倉市、古墳~奈良・平安時代、中・近世)
南作遺跡(四街道市、縄文~奈良・平安時代)

成田事務所

成田市飯仲字台畑330-1 0476-26-7208
郷野遺跡(四街道市、弥生時代)
権現堂遺跡(四街道市、弥生~中世)
南作遺跡(四街道市、縄文~奈良・平安時代)
浮矢遺跡(四街道市、奈良・平安時代)
馬場遺跡(印西市、奈良・平安時代)

《おしらせ》

上記の発掘現場、室内作業は見学できます。ご期待に添えない場合もありますので、かならず、事前にご連絡ください。詳細は本部へお問い合わせを! 本誌は、今年度より年3回発行になりました。第10号は10月発行の予定です。今号のご意見・ご感想などをお聞かせください。



広報誌 フィールドブック vol.9 発行・編集 財団法人 印旛都市文化財センター 〒285 0025 千葉県佐倉市鶴木町198-3 ☎ 043-484-0126(代) 図 043-485-9871 平成13年6月15日 http://www.inba.or.jp/ iモード http://www.inba.or.jp/i/



佐倉市 井野長割遺跡



谷部(画面手前)まで続く盛土や埋土の調査風景



盛土内から出土した晩期の土器

遺跡は印旛沼の南西、標高27m前後の台地上にあります。発掘調査は井野小学校の建設に伴い、昭和40年代に3度行なわれています。その結果、縄文時代後期から晩期(今からおよそ3500年前から2500年前)の集落遺跡であることがわかりました。今回の発掘調査は土地区画整理事業に伴い、遺跡の規模と内容を把握するために今年2月から6月にかけて行なわれました。その結果、4基のマウンドを伴う盛土遺構が確認されました。そのうちの2基は、遺跡の東側の谷に沿って弧状にめぐっています。残る2基はその内側に寄り添うように分布しています。マウンドはもっとも大きなもので高さ2.2m、幅35mほどあり、小さいもので高さ0.6m、直径20mほどです。小学校の体育館部分にあったマウンドを合わせると5基になりますが、すでに造成により破壊されてしまった北側にも盛土がめぐっていたと考えられます。また、盛土の下からは、当時の谷地形が確認されたことから、縄文人が谷を埋めていたこともわかりました。盛土の中には日常使われた土器や石器のほか、土偶や耳飾、ヒスイのペンダント、石剣などの特殊な遺物も含まれています。また、細かい炭や焼けた土、動物の骨粉なども見受けられます。

盛土がどのような目的で構築されたのかは、まだよくわかっていません。君津市三直貝塚のように盛土の中から住居が見つかる場合もあることから、居住の場として使われたこともあったようです。しかし一方で、特殊な遺物を含む大量の遺物が出土すること、規模が大きいこと、長期間にわたって構築されたことを考えると、様々な祭祀・儀礼的な行為もとり行われていたことでしょう。

そのほか、盛土北東端の斜面には、小規模ながら後期後葉と晩期前葉の貝塚が形成されていました。貝のほとんどは、河口などの汽水域(海水と淡水が混ざり合ったところ)の砂の中に棲息するヤマトシジミです。この貝塚の中からは、シカやイノシシの骨も良好な状態で出土しました。これらは当時の周辺環境や食生活を如実に物語ってくれます。

盛土遺構は、青森県三内丸山遺跡や栃木県寺野東遺跡など(ともに国指定史跡)で見つかるほか、県内では君津市三直貝塚で本格的な発掘調査が行なわれ脚光を浴びています。しかし、井野長割遺跡のようなマウンドの配置をなす盛土遺構は、今のところほかに例がありません。そういう意味でも、今後盛土遺構を考えていく上で注目し値する遺跡といえます。



駒形北遺跡の位置と周辺の地形



- ...弥生時代後期住居跡
- ...古墳時代後期住居跡
- ...奈良・平安時代住居跡
- ...奈良・平安時代掘立柱建物跡・掘立柱列
- ...中世以降の土抗
- ...推定柱穴位置

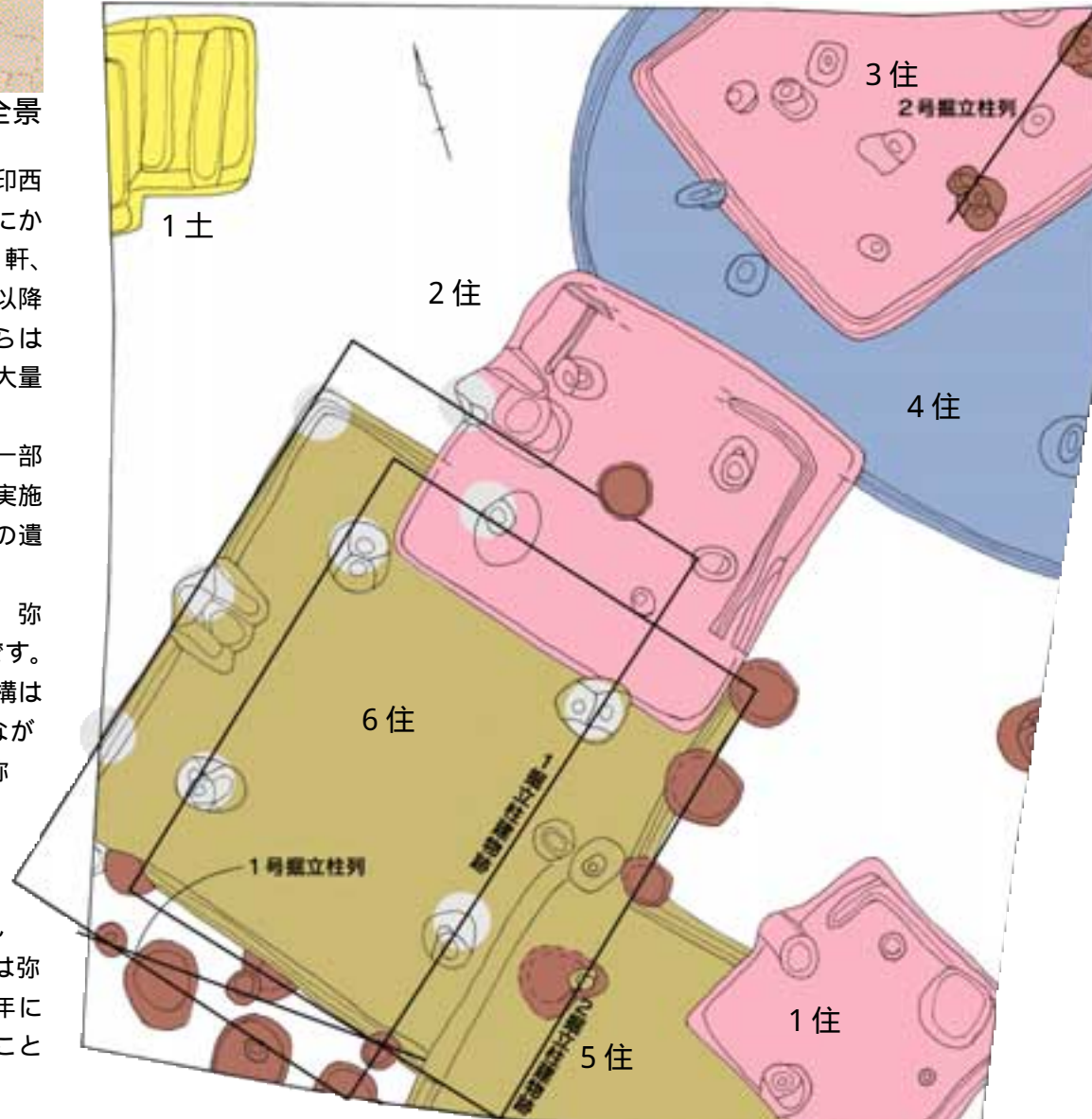
第2地点全景

駒形北遺跡（第2地点）は、利根川を北に望む標高約30mの台地上、印西市小林字天神前にあります。発掘調査は平成12年7月3日から7月19日にかけて実施し、弥生時代後期の住居跡が1軒、古墳時代後期の住居跡が2軒、奈良・平安時代の住居跡3軒、掘立柱建物跡2棟、掘立柱列2列、中世以降の土坑1基等の遺構と多くの遺物が見つかりました。それぞれの遺構からは当時使用されていた土器や石製品が出土し、特に1・2・3号住からは大量の墨書土器が出土しました。

一方、第1地点は、第2地点から道路を隔てた小林小学校の運動場の一部にありました。平成2～4年度まで運動場の拡張工事に伴い発掘調査が実施され、古墳時代から奈良・平安時代の住居跡や掘立柱建物跡等の多くの遺構・遺物が見つかりました。

第2地点での発掘調査で特筆されることは、弥生時代後期の住居跡が検出されたことです。

第1地点での調査では弥生時代の遺構は確認されませんでした。少量ながら遺物が出土し、周辺地域に弥生時代の人々の足跡があるものと考えられていました。今回、弥生時代の住居跡が発見されたことでそれが証明され、駒形北遺跡では弥生時代から平安時代まで長年にわたって集落が営まれていたことがわかりました。



発掘作業風景



3・4号住居跡完掘



2号住居跡遺物出土状況



6号住居跡完掘



1・5号住居跡完掘

